

5 中部地域のまちづくり方針

(1) 地域のあらし

位置・面積

- 中部地域は渋田川、鈴川、金目川の合流部から北方向に向け、扇形に広がる位置にあり、地域の北側は伊勢原市との市境となっています。かつては豊田村^注、城島村、岡崎村、金田村に属し、何れも昭和31年9月に平塚市に編入されました。

注：豊田村は昭和31年4月に大野町と合併し、実際は大野町として平塚市に同年9月に編入された。



- 地域の面積は 1,380.2ha で全市の約 20% を占めます。うち豊田地区は 307.4ha、城島地区は 400.8ha、岡崎地区は 372.0ha、金田地区は 300.0ha です。
- 豊田地区は豊田小学校区、城島地区は城島小学校区、岡崎地区は岡崎小学校区、金田地区は金田小学校区が含まれます。

人口・土地の利用

- 人口は全市の約 12% を占めます。豊田地区は増加、城島地区は減少、岡崎地区は横ばい、金田地区は微増傾向にあります。(平成17年国勢調査)
- 市街化区域は、地域の約 25% を占め、豊田・金田両地区の一部と岡崎地区の一部に住宅地がまとまってあり、その他は広大な農地が広がっています。
- 金目川沿いに、みどり豊かな住宅地が形成されています。このうち岡崎地区には、台地上に環境良好なまとまった住宅地が形成されています。
- 地域の北側一帯は、小田急小田原線の伊勢原駅に近く、日常の最寄り駅としての利用が比較的多くなっています。
- 平野部に広がる豊かな田園は、神奈川県穀倉地帯ともいわれ、県下第一位の米生産量の多くをこの地域が支えています。明治から大正にかけて、大規模な耕地整理が行われ、旧農林省の農業技術研究所や、県の農業総合研究所が設けられるほどでした。

地域の資源

- 鈴川を中心に金目川や渋田川の肥沃な水の流れのなかで、川と共に歩んできた歴史が見られ、鈴川の大畑橋周辺では地域住民によるビオトープづくりが進められています。また、渋田川は、沿川自治会により植栽と管理が行われています。
- 纏緑道が地域住民同士の交流の象徴となっています。
- 農業振興の新たな拠点として花と緑のふれあい拠点の整備が予定されています。



田園風景



纏緑道

(2) 地域の主な課題

道路と交通の課題

- ・東西地域間や、平塚駅や伊勢原駅への交通ネットワークの充足が課題です。

住まい環境の課題

- ・城島地区などを始めとする集落地においては、日常必要な生活利便施設が不足しており、また、農業の維持のため、集落環境の向上、農地の多面的な機能の活用などが課題です。

地域の資源をいかすための課題

- ・花と緑のふれあい拠点（仮称）の整備効果を高めることが重要で、市内外から多くの利用が見込めるよう一体的な整備と、創意工夫のある運営を講じることが課題です。
- ・身近に多くの川と水の流れがあり、これらを地域の自主的なまちづくり活動にいかすことが望まれます。



真土・金目線



金目川とサイクリングコース

(3) 地域のまちづくりの目標と将来像

まちづくりの目標

渋田川・鈴川・金目川をいかした豊かな住まい環境の形成
日常必要な施設やサービスが暮らしに溶け込んだまちの形成
農業を守り盛りたてるための田園空間の活用

将来像

川と親しむ豊かな住まい環境と、
実りある田園が息づくまち

豊かな田園が広がる中部地域は、川辺をいかした交流や生活利便性の向上による充実した暮らしやすい住環境のもとで、平塚の農業を支えるまちをめざします。

(4) 地域の分野別の方針

(4) - 1 道路と交通

道路一般

- ・相模原大磯線など、未整備となっている都市計画道路や幹線道路の段階的な整備を進めます。
- ・安全で円滑な生活交通確保のため、歩道の設置や、橋りょうの整備や改善など効果的な道路整備を進めます。

バス交通

- ・バス交通の円滑な走行や利便性向上のため、バス停の環境整備などを進めます。また、東西方向や伊勢原方面へのバス網の形成に努めます。

歩行者空間、自転車利用環境

- ・歩行者や自転車利用者のため、安全に通行できる空間確保や交通安全施設などの環境整備を進めます。
- ・自転車利用環境の向上のため、自転車走行空間の創出や自転車ネットワークの形成に努めます。また、バス停周辺において駐輪場の設置を検討します。
- ・金目川など川沿いのサイクリングコースは、レクリエーション体験のできるサイクリングコースとして、連続性に配慮した整備を検討します。
- ・入野排水路は、上部利用によりコミュニティ道路 の整備を進めます。

(4) - 2 住まい環境

住宅地

- ・平塚伊勢原線と豊田岡崎線を中心に広がる住居系市街地や、岡崎地区の台地上にある住居系市街地は、戸建てを中心とした低層住宅地として、みどり豊かな居住環境を形成します。
- ・道路などが必要なところは、居住環境や防災性を高めるため、生活道路や下水道施設などの公共施設整備を進めます。

近隣商業地または沿道市街地

- ・岡崎地区の大向丸島線沿道や豊田地区の平塚伊勢原線沿道の一部では、地域生活に密着した店舗や事務所などの立地を誘導します。

工業地

- ・東豊田工業団地は、地区計画 により工業団地としての良好な環境が形成されているため、その生産環境を維持します。

集落地・農地

- ・城島地区の集落地においては、日常必要な生活利便施設の立地の誘導を検討します。
- ・農地は、食糧供給や多面的な機能 を有するためこれを維持及び保全し、さらに有効利用するため農業振興策を進めると共に、生産基盤の向上に努めます。また、市民との協働による利活用についても検討します。

公共公益施設

- ・豊田分庁舎や地区公民館などの公共公益施設は、地域の様々な活動を支える拠点として、誰もがつかいやすいように施設の柔軟な運営と管理に努めます。
- ・寺田縄の旧農業総合研究所跡地に、花と緑のふれあい拠点（仮称）を整備します。「神奈川県立花と緑のふれあいセンター」を中心に、「農の体験・交流の場」を周りに配置します。多方面からの交通が容易になるよう道路整備を進めます。

(4) - 3 景観やみどりと水辺

代表的な景観

- ・富士山や大山・丹沢の山並みへの眺望を確保し、季節の移ろいと開放感があり、まとまりのある田園景観を維持及び保全します。
- ・鈴川や渋田川、金目川は、地域にふさわしい花々や樹木に彩られた河川景観を形成します。

みどりと水辺空間、ネットワーク

- ・田園は、農業生産の場であると共に、様々な生き物のすみかにもなっています。身近なみどりや季節感あふれる風景であり、その多面的効用を果たすよう保全に努めます。
- ・鈴川と板戸川や大根川との合流地点の大畑橋周辺は、自然生態系に配慮したビオトープ空間として、みどりと水辺のふれあいスポットの形成に努めます。
- ・鈴川や渋田川、金目川の川辺は、親水空間をいかし、みどりと水辺のネットワークづくりに努めます。

公園や広場

- ・身近な公園や広場は、地域ニーズに応じ、また地域住民の参加により、誰もがつかいやすく親しみのある空間づくりを進めます。

(5) 地域資源をいかした魅力づくりの方針

花と緑のふれあい拠点（仮称）をいかす

- ・花と緑のふれあい拠点（仮称）では、暮らしのなかに花やみどりを取り入れる方法を提案すると共に、農業の大切さを学んでもらい農業の振興に寄与する拠点として十分にいかします。
- ・周辺の農的景観への配慮、農地の多面的な機能の活用（農家と都市住民の多様な接点の創出、農作物直売、大型市民農園、憩いを与える場など）、アクセス道路の修景整備、地域住民や市民が主体となるおもてなしのイベントの開催などを進めます。また、拠点を中心とした周遊観光を進め、本市の観光の魅力向上と観光客の増加をめざします。

川をテーマとしたまちづくり

- ・中部地域は、鈴川を中心に金目川と渋田川に囲まれており、川と共に歩んできた歴史のなかで、川をテーマとしたまちづくり活動が行われているため、こうした活動をさらに増やすと共に、組織同士のつながりを密にし、活動自体の活性化の誘導に努めます。

地域の魅力づくりに向けて ～地域主体の取組みイメージ～

地域のまちづくりの目標と将来像の実現に向けたこれからのまちづくりは、「様々な主体が各々の役割を果たす協働の取組み」であり「地域自らが行う」ことが重要です。ここでは、地域の資源をいかした取組みを進めるため、地域主体の取組みイメージの例を示します。

例1：田園の中小河川を保全

田園の中小河川においては、野花が咲く土手に沿って、様々な生き物を育む流れが、青田の海を縫うように続いています。こうした風景をいつまでも残しておくことが望まれます。

このため、地域住民と市との協働により、土手沿いの散歩道を快適なものとし、不法投棄を監視する目を増やしていくことが考えられます。

また、このような良さを、もっと多くの人に知ってもらうため、広く市民に働きかけることが重要です。



鈴川（鯉のぼり祭り）



田園と集落（手前が新幹線）

例2：日常必要な施設の立地のための検討

身近に日常必要な生活利便施設がなく、不便を生じているところがあります。特に車に頼ることが難しい高齢者や子どもにとっては、日々の生活に支障を来すことが心配されます。

施設の立地のためには、まず地域が一体となって、どのような施設をどのようにすれば誘致でき、運営または営業が続けられるのかなどを検討することが考えられます。

また、地域が主体となり自分たちで施設の運営を行う方法も考えられます。

例3：農業を盛りたてる

農業の担い手が少なくなっています。消費者と生産者が共に手を携え、地域で農業を支え盛りたてることが望まれます。

このため、職場から地域に生活の場に戻る団塊世代に農業に多面的に携わってもらうことが考えられます。例えば、農地所有者の協力を得て遊休農地をいかし、花畑や野菜づくりなどを行うことなどです。

また、地域で組織をつくり、ここが主体となって農産物を地産地消する、市などの開催も考えられます。



農地（寺田縄）